特集2 事業の発展に大きく貢献した後継者

創業者から受け継がれていく企業の事業や社風。その過程は、まさに百社百様。会社の数だけ物語が生まれている。今号は、さまざまな状況で事業を受け継ぎ、新たな取り組みで可能性を広げた後継者を紹介する。

創業以来の誠実な姿勢を受け継ぎ 突然やってきた予想外の社長就任に対応

フジワラテクノアート
岡山県岡山市

創業者の孫として生まれた藤原恵子さんは、当時の社長の急逝により、急遽、新社長に就任した。最初は右も左も分からない状態だったが、社員や取引先の人たちが温かく支えてくれたこともあり、前に進むことができたという。以来、先代や先々代たちが残した有形・無形の遺産を守り育てることに尽力。近年は新たな事業展開にも取り組み、自社の魅力を拡大している。

迷う間もなく 専業主婦から社長へ

フジワラテクノアートの歴史は、80年ほど前に藤原さんの祖父が立ち上げた藤原製作所から始まる。以後、しょうゆやみそ、酒などの醸造品づくりに欠かせない醸造機械のメーカーとして着実に成長してきた。

藤原さんの父の代に、現在の社名に変更し「株式会社フジワラテクノアート」が誕生。その約1年後に、藤原さんの夫・善也さんが社長に就任するが、6年後に急逝するという不幸に見舞われた。一時期は会長の父・章夫さんが社長を兼任したものの、長年付き合いのある顧客のアドバイスなどもあり、藤原さんが新社長に任命された。

「大学卒業後、すぐに結婚したので家事と育児一筋でした。2人の娘が大学に入り、やれやれと思っていたときに、突然の就任話はまさに青天の霹靂（へきれき）。子どものころから家族に『あなたの旦那さんになる人が会社を継ぐのよ』と言われてきましたが、まさか自分が社長になるとは想像もしていませんでした」と藤原さん。「私は経営どころか会社勤めの経験もないし、社長がどのくらい大変かも分かっていませんでした。でもそのときの私には、悩む暇も別の選択肢もありませんでした」と、当時の切迫した様子を振り返る。

ただ、仕事については何も知らなくても、経営者の家庭という環境で育ったので会社は身近に感じていたという。会社への強い思いもあり、藤原さんを奮い立たせる大きな原動力となった。

▲代表取締役社長の藤原恵子さん。フジワラテクノアートは「岡山県文化奨励賞」、日本設備管理学会「ものづくり大賞」（ともに平成21年）など受賞歴多数

社長就任後の初仕事は 全社員との面談

思いがけず社長になった藤原さんが最初に行ったのは、社員と話をすることだった。何はともあれ、これから一緒に歩む仲間の一人一人と会い、人柄を知るだけでなく、会社に求めることや不満など、いろいろ聞きたいと思ったという。

「社員は120人以上いるので時間がかかりましたが、手応えはありました。心を開いて自分からプライベートな話までしてくれる社員もいましたし、会社や仕事への各自の思いを知ることができました」

また、以前は会社と自宅が近かったため、藤原さんは子どものころ、社員によく遊んでもらったという。その中には今も会社に在籍している人もいて、「心配しなくて大丈夫」と言ってくれるのもうれしかったそうだ。社員との面談は、藤原さんに力を与えてくれたのだ。

現在も、社員とのコミュニケー

写真提供：gualtiero boffi / Shutterstock.com